



CASA連続市民講座

## 第15期 地球環境大学

## 脱！温暖化生活

第1回講座 「地球温暖化の影響と私たちの暮らし」

とき：2007年5月26日（土）

場所：大阪歴史博物館

ご飯を食べ、お風呂に入り、お出かけして、買い物をする。こういったありふれた私たちの日常にも、いろいろな温暖化対策が可能です。今回はこのような身近な脱！温暖化に取り組むことで、新しい快適生活のあり方を発見していこうというものです。思わず周りの人に教えたいような講座を目指して、運営スタッフ一同がんばろうと思っております。

## 報告1 「地球温暖化最新情報」

大久保ゆり（CASAスタッフ）

まず最初に、大阪湾で採れる魚の種類が変化していることや、天候が変わったことで滋賀県の農家では田植えの時期を遅らせている話など、身近な影響についての紹介がありました。次に南太平洋のキリバスやマーシャル諸島では海面上昇により海岸が浸食され、生活の源である水に海水が浸透し飲料水として利用できない、また農業ができない状況にもなっているとの報告がありました。またIPCCの第4次評価

報告書では、すでに温暖化は起こっていて、「その主な原因は人間活動による温室効果ガスの排出増加によるものである。」とほぼ断定しています。さらに気温上昇を2℃に抑えるためには温室効果ガスの排出量を2050年までに2000年比で50%～85%の削減が必要であり、脱温暖化社会に向けて、国としての対策はもちろん、私たち自身の日々の行動も重要になってきているという報告がありました。

## 報告2 「わたしたちの暮らしから、脱！温暖化」

鈴木靖文さん（(有)ひのでやエコライフ研究所）

家庭部門から排出されるCO<sub>2</sub>は日本全体の約13%を占めていて、家庭でのエネルギー消費量は30年間で3倍近くに増加しています。エネルギー消費量が増えた大きな要因は、電気製品の増加と大型化にあるといえます。増え続けている家庭でのエネルギーをどうしたら減らせるかについては、まず、どこからどれだけ出ているのかを知って、その消費電力の大きいものから対策をすると効果的です。電気製品でいえばエ

アコン・冷蔵庫・テレビ・照明のこの4つで家庭の電気の6割以上を占めています。（図1）このほか、シャワーを使うときの消費エネルギーが意外に大きく、シャワーを出した瞬間、小型テレビ200台分をつけたときのエネルギー量に相当します。従ってシャワーは1分1秒でも節約することが大切です。

給湯に関しても、同じ熱を供給するのに、電気にするのか、ガスにするのか、あるいはどん

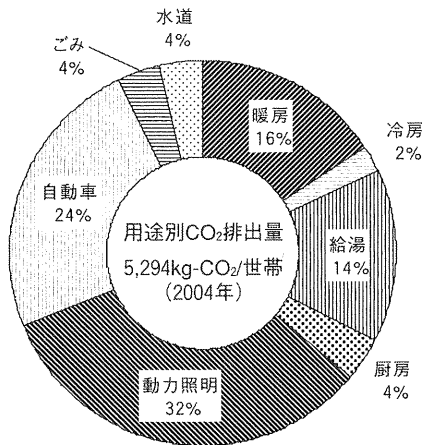


図1. 家庭における二酸化炭素の発生源  
出典：エネルギー経済統計要覧ほかより作成

な機器を使うかで二酸化炭素の排出は大きく変わってきます。

またエアコンなどの買い替え時に省エネ商品を考えて選ぶこと、食物の購入時も旬のものを選ぶことで省エネにつながります。日々省エネを心がけながら、電気の使用量を確認することも大事です。環境家計簿を使うとCO<sub>2</sub>排出量を計算することができ、どれだけ削減できたかもわかります。

## オール電化を考える

環境に優しいと宣伝されているオール電化住宅ですが、本当に環境に優しいかと言うと、もっと深く検討する必要があるようです。以下によく勘違いされている点を、Q&Aの形であげてみます。

Q1：電気代(光熱費)が安くなるから環境にいい？

A1：オール電化では深夜の電気料金を安く設定しているために、多くの家庭では毎月の光熱費が安くなります。

しかし電気の使用量は当然増加するため、逆に環境負荷が大きくなっている場合もあります。

Q2：夜の電気は余って捨てられている？だから使ったほうがいい？

A2：「電気」が余っているという表現は間違いであり、実際夜間電力は原子力発電だけで賄えておらず、不足分は火力発電所を稼働させてまかなっているのが実態です。

つまりCMなどの情報をそのまま受け入れるのではなく、今家庭でどれだけのエネルギーを消費していて、オール電化にしたらどうなるのかなど、私たち消費者が正しい知識を持って判断していく必要があります。

## 講座を終えて

参加者のアンケートから「オール電化がCO<sub>2</sub>排出削減にあまり効果的でない」「エコキュートの中身をよく知らないのでわかりにくかった」「ガスの省エネプランもオール電化と対抗するようによくCMをしている、今回はオール電化の件のみだったので、ガスの方との比較なども詳しく知りたい」などオール電化に関するコメントが多くありました。

CASAでは2006年11月に「環境面から見たオール電化問題に関する提言(中間報告)」を出しており、その詳しい内容についてはCASAのHPからもダウンロードをして見ることもできます。

さらに「家庭におけるCO<sub>2</sub>の発生場所から日々の生活を見直すことなど、家族と一緒に考える機会を持ち、一つ一つ実践できたらと思います。」「CO<sub>2</sub>削減がとても大切と痛感しました。」「講師の具体的なお話、私にもできそうです。」「参加された方からの、「具体的に実践しよう!」というものも多くありました。

私個人的には「家族だんらんができていない家庭はエネルギー消費が少ない」という鈴木さんのお話が印象的でした。省エネをするのはケチケチしたような節約のイメージがありますが、TVを消したことによって家族だんらの時間や会話が増えたり、「エネルギーを使わない豊かさ」もあるということ。私はそんな視点でエコライフを心がけていきたいと思います。

(報告：江川真理子 CASAボランティア)